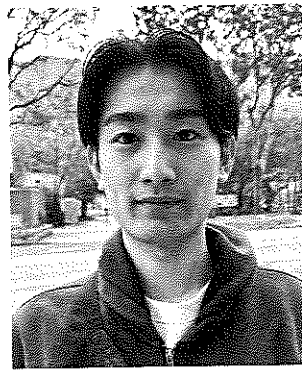


二つの場所を知ること

松濤学舎

友廣 凜太郎



東京での生活が始まり、私はこの街が持つ圧倒的なエネルギーに触れてきた。最新のトレンドが分単位で入れ替わり、世界中の情報や物、そして多様な夢を持った人々が絶え間なく交差する。東京で見つけた「楽しいこと」を挙げれば切りがなくて、この街の懐の深さは私に新しい視点を与えてくれた。確かに東京は刺激に満ちた、素晴らしい場所だ。

しかし、都会の華やかさに身を置く時間が長くなるほど、私は自分が佐賀という土地で生まれ育ったことを、以前よりますますと幸運に感じるようになった。

た。

おそらく、東京で生まれ育った人の多くは、あえて佐賀に住もうとは思えないかもしれない。便利さや効率が優先される都会の価値観で見れば、佐賀は「何もない田舎」と映ることもあるだろう。けれど、私たちは違おう。佐賀という静かで温かい郷を持ち、そこから一歩踏み出して東京を知ること、二つの世界の良さを比較し、それぞれの価値を深く味わうことができる特権を持っているのだ。

高層ビルの隙間から切り取られたような狭い空を見上げるたび、私の心は決まって、地平線まで遮るもののない佐賀平野の大きな空を思い出す。秒単位で流れる街の喧騒の中においても、ふとした瞬間に恋しくなるのは、有明海の潮風が運ぶ穏やかな。

筆者のプロフィール

出身地 佐賀市

出身校 長崎南山高等学校

大学 情報経営イノベーター

シヨン大学

情報経営イノベーター

シヨン学部4年

な時間や、飾らない言葉で笑い合える故郷の人々の温かさだ。東京の洗練された魅力に肌で知ったからこそ、私は佐賀の静寂や自然の豊かさを、単なる風景ではなく「かけがえのない財産」として再発見することができた。

結局のところ、私を一番深い場所で支え、本当の自分に戻してくれるのは佐賀の風景だ。そして今、私はその想いを単なる「郷愁」で終わらせたくないと考えている。二つの街を知り、それぞれの良さと課題を客観的に見つめることができる今の自分だからこそ、将来は東京で得た経験や知識を携えて、大好きな佐賀のために貢献したい。

「佐賀が一番好きだ」と胸を張って言える誇りを胸に、私はこれからも学び続け、いつか必

ず故郷の未来に新しい風を吹き込みたいと思う。

